

## 平成31年1月1日現在の世帯数と人口

(千種区 18.18Km<sup>2</sup>)

学区名	世帯数	人 口			対前月増減	
		総数	男	女	世帯数	人口
1 千 種	5,477	8,821	4,496	4,325	10	11
2 千 石	4,025	6,865	3,432	3,433	△ 9	△ 16
3 内 山	5,607	7,776	4,104	3,672	△ 21	△ 31
4 大 和	3,397	6,675	3,300	3,375	3	8
5 上 野	7,281	15,395	7,656	7,739	8	21
6 高 見	7,369	13,514	6,472	7,042	△ 15	△ 29
7 春 岡	6,855	10,925	5,751	5,174	△ 21	△ 30
8 田 代	11,560	22,041	10,681	11,360	△ 23	△ 23
9 東 山	10,349	19,506	9,609	9,897	0	△ 10
10 見 付	4,364	8,130	4,099	4,031	△ 36	△ 47
11 星 ケ 丘	3,537	6,900	3,128	3,772	9	4
12 自 由 ケ 丘	3,539	7,229	3,301	3,928	14	27
13 富 士 見 台	6,457	15,385	7,132	8,253	△ 1	4
14 宮 根	3,812	8,271	3,950	4,321	5	7
15 千 代 田 橋	3,664	8,502	3,989	4,513	△ 6	△ 20
千 種 区 計	87,293	165,935	81,100	84,835	△ 83	△ 124
H30.1.1	86,912	166,346	81,356	84,990	△ 11	△ 48
対 前 年 比	381	△ 411	△ 256	△ 155	△ 72	△ 76
名 古 屋 市	1,104,454	2,321,727	1,146,687	1,175,040	△ 77	△ 523
愛 知 県 ( H30.12.1 )	3,200,343	7,544,204	3,774,545	3,769,659	2,149	1,938

前月中の増減内訳	自然動態			社会動態		
	出 生	死 亡	自然増減	転 入	転 出	社会増減
	108	90	18	745	887	△ 142

【参考】

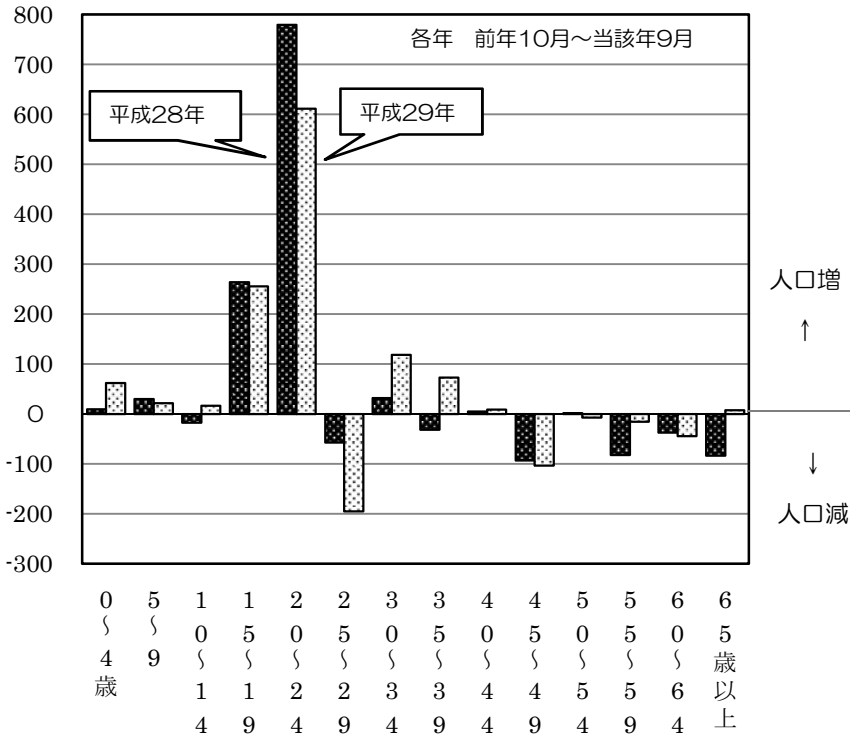
国勢調査千種区人口				これまでの最大人口	
昭和55年	166,837	平成12年	148,537	173,598 (昭和50年2月1日)	
昭和60年	163,762	平成17年	153,118		
平成2年	156,478	平成22年	160,015	これまでの最少人口	
平成7年	148,847	平成27年	164,696	146,727 (平成11年4月1日)	

注) 世帯数と人口は、平成27年国勢調査結果確定値を基礎とし、毎月の住民基本台帳人口の異動数を加減して推計したものである。

## 千種区の5歳階級別社会増減数の推移

今回は愛知県人口動向調査（名古屋市分）に基づいて、本区の年齢5歳階級別社会増減数（転入数－転出数）をみていきます。

図1:年齢5歳階級別社会増減数（平成28年と平成29年の比較）

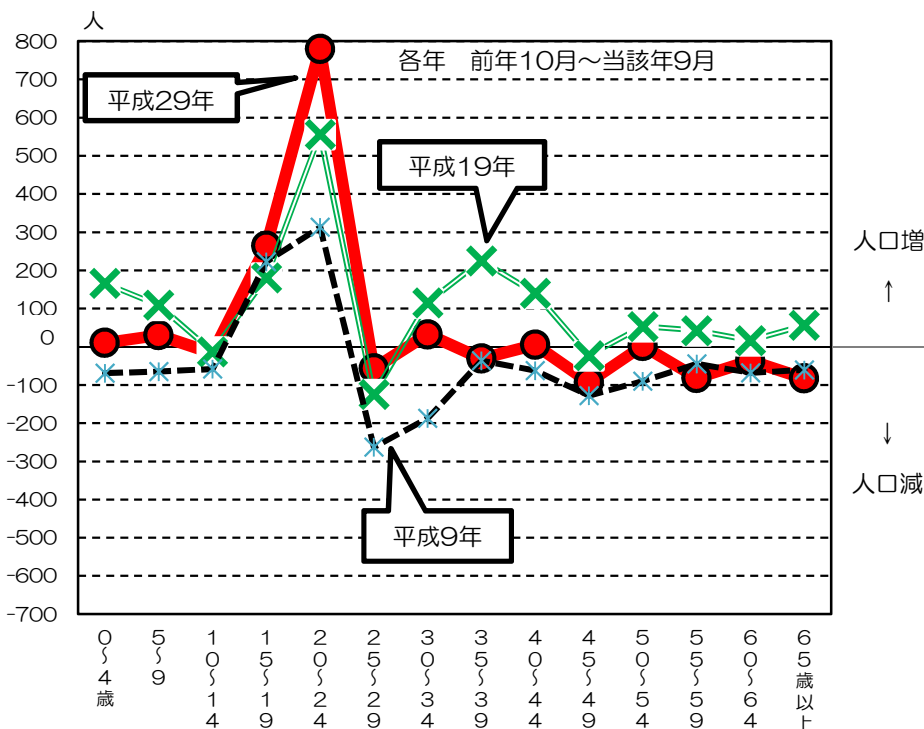


平成28年と平成29年の年齢5歳階級別社会増減数（図1）を見てみると、いずれも15歳～19歳、20歳～24歳で大幅な社会増（本区に転入超過）がみられます。

その他の年代をみると、平成28年は社会減であった10～14歳、35～39歳が平成29年には社会増（本区に転入超過）に転じています。

また、45歳以上は平成28・29年ともに社会減（本区からの転出超過）の傾向がみられます。

図2:年齢5歳階級別社会増減数の推移



平成9年から平成29年までの10年ごとの年齢5歳階級別社会増減数の推移（図2）をみると、15～24歳に本区に転入し、25～29歳で転出するという傾向に大きな変化はみられませんが、20～24歳は、平成9年は約300人の社会増でしたが、平成19年、平成29年はそれぞれ約550人、800人の社会増となっています。

また、平成19年以降の全体的な社会増減は社会増の続く傾向が見られます。